

## 令和元年度南アルプス北部（北岳地域）における保全事業について

### 1. ケージ保護事業

#### (1) 背景

環境省では平成 27 年（2015）から、ライチョウの個体数の減少が最も著しい南アルプス白根三山北部地域で、悪天候と天敵によって死亡率が高くなる孵化後 1 ヶ月について、雛をケージで守るケージ保護事業を実施している。

また、平成 29 年度からは、南アルプス白根三山北部地域でのキツネ、テンの捕食者除去試験も開始している。

#### (2) 令和元年度ケージ保護実施予定

##### 1) 平成 30 年度白根三山北部地域におけるなわばり分布

南アルプス白根三山北部地域（小太郎山～農鳥小屋）では、2004 年から 2008 年、2013 年から現在まで、毎年ライチョウのなわばり分布と足輪による標識調査が実施されてきている。

令和元年度も、6 月中旬に白根三山北部地域一帯のなわばり分布調査を実施する。特にケージ保護放鳥個体の分散状況の確認に努める。

##### 2) ケージ保護の実施

令和元年度も、これまでと同様北岳山荘付近に 3 個のケージを設置し、3 家族を収容する。収容は 6 月下旬頃を予定し、7 月いっぱいまでケージ保護を行い、8 月の月上旬に放鳥する。ケージ保護実施中は、天候が可能な限り、午前と午後にそれぞれ 1 回ずつ 3 時間程度ケージから「散歩」に出し、家族をケージの外で自由に生活させるようにする。

なお、北岳でのケージ保護は今年度までとし、終了後に当事業の評価を行う。

##### 3) ケージ保護実施体制

令和元年度のケージ保護についてはこれまで通り、中村信州大学名誉教授と小林（東邦大学）が中心となって実施する。作業は延べ 20 人程度で行い、ライチョウサポーターズなどに呼びかけて人員を確保する。

##### 4) ケージ内での餌の確保

ケージ内には、悪天候により外に出せない日や不足する餌を補うための餌を用意し、朝、昼、夕方一日 3 回餌を与える。

餌内容は、これまでと同様に、ミルワーム、前年の秋に採集したコケモモ、ガンコウラン、クロマメの実、現地で採集したクロウスゴ、イワツメクサ、オンタデ、オヤマノエンドウ、ムカゴトラノオを与える。

なお、今年度は現地高山植物への負荷軽減と将来的な野生個体の飼育下への導入を見据えて、市立大町山岳博物館で飼育ライチョウに用いている餌をケージ保護個体に給餌する試験を実施し、嗜好性や日齢と餌慣れの関係などの基礎データを収集する予定である。

#### 5) 捕食者対策

昨年に引き続いて、キツネとテンの捕獲を実施する。ケージ保護実施前には、北岳山荘内とその周辺にカゴわなを仕掛ける。また、ケージ保護実施中には、それぞれのケージの横に1個ずつ、計3個のカゴわなを設置する。同じく肩ノ小屋においても山小屋開け直後から10月末まで、カゴわなによる捕獲を実施する。

なお、捕殺式の筒わなの導入を目指し、試験設置による基礎データの収集等を行い、捕食者対策ワーキンググループで議論していく予定。

### (3) ケージ保護の評価

#### 1) 白根三山北部地域におけるなわばり数の変遷

この地域のなわばり数は、1981年の63なわばりから2004年の18なわばりに急減した後も減少が続き、2014年には8なわばりと最低数を記録している。翌年の2015年からは北岳山荘近くでケージ保護が実施され、さらに2017年からはキツネ、テンの捕食者除去が実施された。その結果、2015年以後は2016年に12なわばり、2017年に16なわばり、今年の2018年には24なわばりで、ケージ保護を実施した2015年以降確実に増加に転じている。令和元年度のなわばり数の結果が期待されており、域内保全技術確立のための重要な評価要素となっている。

#### 2) 現在までのケージ保護実施雛数と放鳥後の雛の生存確認状況

現在までにケージ保護を実施した家族数と雛数は、延11家族計56雛である。平成29年度の捕食者対策事業実施以降、放鳥雛の2ヶ月後の生存率は70%以上と非常に高くなっており、これまでのケージ保護放鳥個体のうち4個体が翌年以降に確認されている。

なわばり数の増加やケージ保護放鳥個体が繁殖に貢献していることから、ケージ保護事業がこの地域のライチョウの繁殖数の増加に貢献していることが示唆されている。

### (4) 標識個体の分散状況

ケージ保護した標識雛がどこに分散して繁殖しているかの確認は、まだ十分には調査されていない。山岳がほぼ連続している南アルプスでは、北の端から南の端まで若鳥（特に雌）が広く分散している可能性が考えられる。昨年実施できなかった農鳥岳を含め、南部の赤石・荒川岳までの南アルプス全域での確認調査を実施する予定である。